



6月13日 第3回こども居場所部会 関係団体ヒアリング

## 「こども食堂」 発表者：山口県こども食堂支援センター

### 1 事務局について

#### 認定NPO法人山口せわやきネットワーク

代表 児玉頼幸（元県職員、2021年4月から常勤）

2003年設立 山口市市民活動支援センター（受託運営）

#### 2016年 子どもの貧困問題に取り組む「こども明日花プロジェクト」開始

<目的> 大人が子どもたちを見守り支える地域づくり（子どもの地域包括支援の仕組みづくり）

ファンドレイジング（寄付等）により、行政に頼らない「資金調達」

- <活動>
- ・ 学習支援 山口市内 5カ所 毎週土曜・昼食付き
  - ・ 居場所づくり // 1カ所 毎週土曜・夕食付き
  - ・ こども食堂 // 3カ所 毎月1回
  - ・ 学校朝ごはん // 2中学校 毎週水曜・朝食
  - ・ 「日本財団子ども第三の居場所・萩拠点」居場所・学習支援・こども食堂
  - ・ コロナ禍のひとり親家庭等への食支援など

中間支援：・子どもの貧困問題（研修、人材育成）

・こども食堂サポート事業（県委託事業）→ 山口県こども食堂支援センター



こども明日花  
project

## 2 「山口県こども食堂支援センター」委託事業について

### (1) 「こども食堂」の取組

2018年5月「広がれ、こども食堂！全国ツアー（山口）」開催

講師：湯浅誠さん「黄信号・赤信号」「こども食堂の運営者を支援する仕組みが必要」

気付き「こども食堂は、地域の大人たちが子どもたちを気遣い、見守る（支える）きっかけづくり、  
仕組みとなり、子どもの貧困（困窮、孤独や孤立）を防ぐ地域づくりにつながる」

2018年12月 山口市内にこども食堂3カ所開設、県内のこども食堂などへの中間支援開始

2019年4月 山口県こども食堂サポート事業 公募

### (2) こども食堂サポート事業（委託事業）

山口県「3年後に県内のこども食堂を100カ所にする」参考：2019年6月時点、55カ所

#### <仕様書>

- ・ 開設や運営の相談対応体制  
（統括・地区推進コーディネーター）
- ・ 開設準備セミナー、個別相談会の開催
- ・ こども食堂マップの作成
- ・ 開設・運営マニュアル
- ・ こども食堂ネットワーク会議

#### <提 案>

- ・ 県としての「こども食堂応援メッセージ」発信
- ・ 市町村、市町村社協の「こども食堂担当課」明確化
- ・ 保健所等への手続きの明確化・簡素化
- ・ 行政や関係団体、企業等による「推進会議」設置
- ・ 県内の運営者によるネットワーク組織の構築

## こども食堂応援宣言

「こども食堂」は、食事の提供を通じて、様々な家庭環境にある子どもたちの多様な学びや体験の場となるほか、地域での見守りの機能を果たすなど、家庭や学校に次ぐ第3の居場所となりうるものとして、重要な役割を担っています。

また、「こども食堂」の開設・運営を通じて、「こども食堂」が高齢者や障害者を含む地域住民の交流拠点に発展する可能性があるため、全ての人々が地域、暮らし、生きがいを共に創り、高め合うことができる「地域共生社会」の実現に向けて大きな役割を果たすことが期待されています。

こうした取組が、子どもたちのより身近な場所として、更には、地域住民の交流拠点として県内各地域に広がりますよう、地域、関係団体、企業、行政など、多くの皆様方の力を結集し、全力で「こども食堂」を応援します。

令和元年10月14日

山口県知事 村岡嗣政

## <実績>

- ・山口県知事「こども食堂応援宣言」2019年10月
  - ・各市町「こども食堂」担当課をホームページ掲載
  - ・「こども食堂登録制度」（保健所等手続き簡素化）  
新規開設は、ほぼ「登録」（助成事業の要件）
  - ・相談支援体制  
統括コーディネーター 1人  
地区推進コーディネーター 9人（運営者等）  
開設相談、物資等の配分、地元市町等との連携を担う
  - ・開設セミナー等（県内全市で実施済み）  
開催地の市と市社協に後援と協力要請（周知と運営など）
- 2021年度末 県目標「100カ所」達成**

年度	山口県	全国
2016年	7カ所	319カ所
2018年	24カ所	2,286カ所
2019年	55カ所	3,718カ所
2020年	85カ所	4,960カ所
2021年	110カ所	6,007カ所
2022年	140カ所	7,363カ所
現在	170カ所	

山口県委託開始・ネットワーク組織  
全国こども食堂支援センターむすびえ

（注）箇所数は山口県こども食堂支援センター、全国こども食堂支援センターむすびえの数値から参照



# 山口県こども食堂・子どもの居場所 ネットワーク 発足式



## 3 山口県こども食堂・子どもの居場所ネットワーク

設立：2019年10月14日

代表：金子淳子（みんなや食堂：宇部市）

目的：

- ・こども食堂とおしの情報交換・相互連携、開設支援
- ・研修事業（食品衛生など）、情報発信、共同事業
- ・企業や団体等からの寄付の受け皿
- ・県や市町に政策提案・調整、企業・団体等支援要請

実績：

- ・食品衛生や感染症対策等の研修会
- ・保険料や食品衛生研修会参加費の助成
- ・県下一斉フードパントリー（2021年以降、年2回）  
むすびえ助成金等を活用して県全域で実施  
全市町・市町社協に協力要請
- ・フードバンク山口、丸久（スーパー）、J A山口県  
企業等から寄付の受入と配付
- ・むすびえや他県ネットワークとの情報交換・連携
- ・県や市町「地域福祉計画」に「こども食堂」記載提案

市町名	箇所数
下関市	3 1
山陽小野田市	3
美祢市	6
宇部市	2 2
山口市	2 8
防府市	1 7
周南市	2 1
下松市	8
光市	6
柳井市	3
平生町	2
田布施町	2
和木町	1
岩国市	1 1
周防大島町	2
萩市	5
阿武町	1
長門市	1
合計	1 7 0

2023年5月  
山口県こども食堂  
支援センター調査

## 4 こども食堂の増加の要因

山口県こども食堂支援センターまとめ

- 県知事名「こども食堂応援宣言！」**  
**県知事の明確なメッセージ**
- 県こども食堂サポート事業**（委託事業 2019年度～）  
 相談支援体制の整備（**コーディネーター**による個別対応や地元行政への対応等）
- 企業・団体等の支援**  
 (株)丸久、NPO法人フードバンク山口、JA山口県などからの食料品支援、企業寄付など
- こども食堂登録制度**  
 保健所等との連携づくり（144/170カ所）
- 市町・市町社協の理解促進と協力要請**  
 開設セミナー、県下一斉パントリーなどへ協力
- 各種助成金制度（特にコロナ禍）**  
 山口県こども子育て応援ファンド  
 山口県共同募金会など

## こども食堂はこんな場所（機能）

### こどもたち

- ・ みんなでご飯を食べるところ
- ・ 一緒に遊べる場所
- ・ いろんな大人たちと出会うところ
- ・ 相談できる大人たちがいるところ
- ・ お兄ちゃん、お姉ちゃんに勉強を  
教えてもらうところ
- ・ いろんな体験ができる場所
- ・ 安心して過ごせる場所・時間
- ・ お手伝いさせてもらえるところ
- ・ 子どもだけで行ける場所
- ・ 不安や心配を口に出すことができる
- ・ 困ったら、助けてくれるところ

### おとなたち

- ・ お節介力を発揮する場所
- ・ 地域の新しい出会いの場
- ・ 昔の付き合いを取り戻す場
- ・ 知り合って、互いを思いやる場
- ・ 寄付したり、野菜を持ち込める場所
- ・ 子どもと一緒にご飯を食べられる場所
- ・ 子どもの笑顔に触れ合える場所
- ・ 子どもたちから元気をもらえる場所
- ・ 子どもたちのために、力を出せる場所

「子どもにとって、大人にとって、大切な居場所」

「人をつなぎ、地域をつなぐ場所」

「何か、楽しい場所」

# 子どもに関わる関係者（ステークホルダー）との連携 (学校のプラットフォーム化) →

- 市教育委員会
- 小中学校・高校  
担任、養護教諭
- 小中学校PTA
- コミュニティスクール
- スクールソーシャル  
ワーカー (SSW)

- NPO法人
- 学習ボランティア
- 調理ボランティア
- 協力企業・団体  
(食料品等)

- ← (事業委託)
- 市児童家庭担当課
  - 市社会福祉事務所
  - 保健所・保健師
  - 社会福祉法人
  - 市社会福祉協議会

- 自治会
- 地域交流センター
- 民生委員・主任児童委員
- 地区社協 母推・食推
- スポーツ少年団 子ども会

(拠点・相談員サポート)

↓  
**こども食堂・地域食堂**  
子ども 親

- 学童保育
- 保育所 幼稚園

↑↓ (情報交換・連携)

- 児童相談所
- 病院・歯科医
- 警察

← (虐待防止)



## 5 現状の課題と「中間支援」としての取組

- ・ **コロナ禍で活動休止、あるいは最近では「持ち帰りのみ」で、5類移行後の「会食」再開**
  - 感染対策、高齢者等への配慮など、を踏まえた「会食」実施を支援
  - 「会食」に向けた会場やボランティア確保、資金（不安を取り除く）
  - 「会食」により、居場所としての機能
- ・ **コロナ禍で出会った、困窮など課題を抱えた家庭への対応**
  - 課題対応：行政や関係機関等へのつなぎ方、福祉専門人材との連携
  - 食品等支援の継続の必要性
- ・ **こども食堂の機能強化（個別対応、学習支援、体験など）への対応**
- ・ **行政や社協等関係団体等の理解促進と連携強化**
  - 県や市町の「地域福祉計画」に「こども食堂」を明記（機能、役割）
  - 市域ネットワークによる地元の行政や社協、団体等との連携
- ・ **企業や団体等に対する寄付やボランティアの呼びかけ**
  - 県域団体、市町内、個別企業・団体へのアプローチ（社会貢献）
  - 社会福祉法人の地域貢献事業への提案



	行政	支援センター（委託等）	地域ネットワーク （県・市）
開催周知・利用促進	広報誌等への掲載 学校等でのチラシ配布	行政（教委含む）への働きかけ	（市）市町・社協・学校等との連携
普及啓発・理解促進	応援メッセージ	こども食堂の情報発信 ボランティア募集など	各種団体、企業等と連携協定 共同事業の実施（県下一斉）
安定運営（継続）	個別こども食堂への助成制度（開設等）	助成金情報等の提供 個別寄付のマッチング	企業等からの寄付の受皿（物資・資金等） 民間助成金等の活用
リスク管理	保健所等との連携	保険加入促進 食品衛生・感染症対策研修会	保険料、食品衛生研修会参加費の助成
安心安全な居場所	社協、民児協、社福士会等への呼びかけ	運営者研修会・交流会 ボランティア研修会 伴走支援に関する研修	こども食堂等からの問題提起 やフィードバックをまとめ、 マニュアルとして共有
機能強化（相談・学習支援・見守り等）	関係部署との連携	主任児童委員・SSW等との連携促進	むすびえや他県ネットワーク からノウハウ・情報収集
位置づけの明確化	子どもの居場所事業化 「地域福祉計画」記載	子ども支援部門・地域福祉関係部署との連携	行政等への働きかけ

## これからの活動について

- こども食堂への理解促進・普及啓発  
地域のお節介が子どもや子育て家庭などに安心を与え、  
子どもの居場所をつくる
- 地域の福祉関係者などとのつながり（相談と支援）  
地域の資源をつなげ、巻込む
- 地域で見守り支える仕組みづくり  
こども食堂で出会い、つながり、支え合う  
＝「地域福祉」の機能を発揮



# コープやまぐち第17回「女性いきいき大賞」最優秀賞 (山口県知事賞) 下関市 「Kananowa」

第3種郵便物認可

## 地域で子育て 遺志をつなぐ輪



### 下関「Kananowa」

夕刻、下関市の住宅を訪ねると、地域の女性たちが食事の支度をしていた。しばらくすると、学校帰りの中学生が集まってくる。

この日のメニューは焼き魚に肉じゃが。みんなで食卓を囲み、食べ終わるとトランプの「大富豪」。負けた子が血洗ひ係になる。午後8時。1年生は1階に、2、3年生は2階に分

かれて勉強会が始まった。遅れてきた生徒も含めて20人近く。玄関は靴でいっぱいだ。

けるエックス2乗は?」。生徒同士でも教えあう。午後10時に終了。生徒たちに感想を聞くと「友だちがいるから楽しい」「教えあえるのがいい」。

学びたい科目を自習する子もいる。この家の主婦で「Kananowa」(かなのわ)代表の前田亜樹さん(45)は、2階のホワイトボードの前で4、5人の子に教えている。

「昔は勉強が嫌いで、学校に行くのが憂鬱でした。助けてくれたのがこの勉強会。お母さんが1対1で教えてくれて。恩返しをしたくてここにきています」

隆起に断層、褶曲とは…。地学を教えていると、自習している子から他の科目の質問が飛んでくる。「亜樹さん、6エックスか

前田さんは、平日はほぼ毎日、地域の中学生を中心とする子どもたちの居場所や勉強の場として、自宅を開放している。夕食は前田さんや地域の人がボランティアで調理する。農家はコメ、食品会社は規格外の食品などを提供してくれる。



前田亜樹さん(左から2人目)の自宅2階で勉強する中学2、3年生=18日、下関市

夏休みは学校に場所を移し、小中学生対象の勉強会を開催。前田さんたちが毎日120〜150食ほどの弁当を家庭科室でつくり、教員や、この学んだ若者とともに教室で教える。タケノコ掘りや魚釣りといった自然体験も。親が忙

### ほぼ毎日自宅を開放 子どもたちの居場所に

して同伴できなくても、子どもだけで参加できるのが特徴だ。大勢の地域の大人が見守るから、滝登りのように注意が必要な活動にも取り組めるという。幼児からお年寄りまで参加するバス旅行も催す。

Kananowaでは、「これらの活動を」親子親(つらいや)と呼ぶ。地域で支え合うことにより、親の負担を減らしながら、子どもたち一人ひとりに寄り添う。そうして子どもも照らすという意味だ。

「佳奈の輪」。2012年に35歳でなくなった下関市出身の元教員、荒木佳奈さんのことを指す。荒木さんは、下関や佐賀県の小、中、養護学校(現在は特別支援学校)で教員を務めたが、血液の難病を患い、闘病を強いられた。放射線治療や骨髄移植を受け、酸素ボンベと車いすが欠かせない生活になった。そんななか、荒木さんは病やいのちと向き合うことを通じて考えたことや、教え子への思いなど、多くのメッセージを日記のようなかたちで書きとめていた。「病気をして、生活の質は落ちたかも知れないけど

次頁に続く



# 地域で子育て 遺志をつなぐ輪



## 下関「Kannanowa」

かれて勉強会が始まった。遅れてきた生徒も含めて20人近く。玄関は靴でいっばいだ。

学びたい科目を自習する子もいる。この家の主婦で「Kannanowa」(かなのわ)代表の前田亜樹さん(45)は、2階のホワイトボードの前で4、5人の子に教えている。

「急に断層、褶曲とは...。地学を教えていると、自習している子から他の科目の質問が飛んでくる。」

「亜樹さん、6エックスか」

「昔は勉強が嫌いで、学校に行くのが憂鬱でした。助けてくれたのがこの勉強会。お母さん方が1対1で教えてくれて。返返しをしたくてここにきています」

「昔は勉強が嫌いで、学校に行くのが憂鬱でした。助けてくれたのがこの勉強会。お母さん方が1対1で教えてくれて。返返しをしたくてここにきています」

「昔は勉強が嫌いで、学校に行くのが憂鬱でした。助けてくれたのがこの勉強会。お母さん方が1対1で教えてくれて。返返しをしたくてここにきています」

「昔は勉強が嫌いで、学校に行くのが憂鬱でした。助けてくれたのがこの勉強会。お母さん方が1対1で教えてくれて。返返しをしたくてここにきています」

「昔は勉強が嫌いで、学校に行くのが憂鬱でした。助けてくれたのがこの勉強会。お母さん方が1対1で教えてくれて。返返しをしたくてここにきています」

「昔は勉強が嫌いで、学校に行くのが憂鬱でした。助けてくれたのがこの勉強会。お母さん方が1対1で教えてくれて。返返しをしたくてここにきています」

「昔は勉強が嫌いで、学校に行くのが憂鬱でした。助けてくれたのがこの勉強会。お母さん方が1対1で教えてくれて。返返しをしたくてここにきています」

「昔は勉強が嫌いで、学校に行くのが憂鬱でした。助けてくれたのがこの勉強会。お母さん方が1対1で教えてくれて。返返しをしたくてここにきています」

「昔は勉強が嫌いで、学校に行くのが憂鬱でした。助けてくれたのがこの勉強会。お母さん方が1対1で教えてくれて。返返しをしたくてここにきています」

「昔は勉強が嫌いで、学校に行くのが憂鬱でした。助けてくれたのがこの勉強会。お母さん方が1対1で教えてくれて。返返しをしたくてここにきています」

「昔は勉強が嫌いで、学校に行くのが憂鬱でした。助けてくれたのがこの勉強会。お母さん方が1対1で教えてくれて。返返しをしたくてここにきています」

「昔は勉強が嫌いで、学校に行くのが憂鬱でした。助けてくれたのがこの勉強会。お母さん方が1対1で教えてくれて。返返しをしたくてここにきています」

「昔は勉強が嫌いで、学校に行くのが憂鬱でした。助けてくれたのがこの勉強会。お母さん方が1対1で教えてくれて。返返しをしたくてここにきています」

「昔は勉強が嫌いで、学校に行くのが憂鬱でした。助けてくれたのがこの勉強会。お母さん方が1対1で教えてくれて。返返しをしたくてここにきています」

「昔は勉強が嫌いで、学校に行くのが憂鬱でした。助けてくれたのがこの勉強会。お母さん方が1対1で教えてくれて。返返しをしたくてここにきています」

「昔は勉強が嫌いで、学校に行くのが憂鬱でした。助けてくれたのがこの勉強会。お母さん方が1対1で教えてくれて。返返しをしたくてここにきています」

「昔は勉強が嫌いで、学校に行くのが憂鬱でした。助けてくれたのがこの勉強会。お母さん方が1対1で教えてくれて。返返しをしたくてここにきています」

「昔は勉強が嫌いで、学校に行くのが憂鬱でした。助けてくれたのがこの勉強会。お母さん方が1対1で教えてくれて。返返しをしたくてここにきています」

「昔は勉強が嫌いで、学校に行くのが憂鬱でした。助けてくれたのがこの勉強会。お母さん方が1対1で教えてくれて。返返しをしたくてここにきています」

「昔は勉強が嫌いで、学校に行くのが憂鬱でした。助けてくれたのがこの勉強会。お母さん方が1対1で教えてくれて。返返しをしたくてここにきています」

「昔は勉強が嫌いで、学校に行くのが憂鬱でした。助けてくれたのがこの勉強会。お母さん方が1対1で教えてくれて。返返しをしたくてここにきています」

「昔は勉強が嫌いで、学校に行くのが憂鬱でした。助けてくれたのがこの勉強会。お母さん方が1対1で教えてくれて。返返しをしたくてここにきています」

「昔は勉強が嫌いで、学校に行くのが憂鬱でした。助けてくれたのがこの勉強会。お母さん方が1対1で教えてくれて。返返しをしたくてここにきています」

「昔は勉強が嫌いで、学校に行くのが憂鬱でした。助けてくれたのがこの勉強会。お母さん方が1対1で教えてくれて。返返しをしたくてここにきています」

「昔は勉強が嫌いで、学校に行くのが憂鬱でした。助けてくれたのがこの勉強会。お母さん方が1対1で教えてくれて。返返しをしたくてここにきています」

「昔は勉強が嫌いで、学校に行くのが憂鬱でした。助けてくれたのがこの勉強会。お母さん方が1対1で教えてくれて。返返しをしたくてここにきています」

「昔は勉強が嫌いで、学校に行くのが憂鬱でした。助けてくれたのがこの勉強会。お母さん方が1対1で教えてくれて。返返しをしたくてここにきています」

「昔は勉強が嫌いで、学校に行くのが憂鬱でした。助けてくれたのがこの勉強会。お母さん方が1対1で教えてくれて。返返しをしたくてここにきています」



前田亜樹さん(左から2人目)の自宅2階で勉強する中学2、3年生=18日、下関市

けるエックス2乗は?。生徒同士でも教えあう。午後10時に終了。生徒たちに感想を聞くと「友だちがいるから楽しい」「教えあえるのがいい」。

かつてここで学び、いまは教えにきている市内の短大生、大谷直也さん(18)はこう話した。

「昔は勉強が嫌いで、学校に行くのが憂鬱でした。助けてくれたのがこの勉強会。お母さん方が1対1で教えてくれて。返返しをしたくてここにきています」

「昔は勉強が嫌いで、学校に行くのが憂鬱でした。助けてくれたのがこの勉強会。お母さん方が1対1で教えてくれて。返返しをしたくてここにきています」

「昔は勉強が嫌いで、学校に行くのが憂鬱でした。助けてくれたのがこの勉強会。お母さん方が1対1で教えてくれて。返返しをしたくてここにきています」

「昔は勉強が嫌いで、学校に行くのが憂鬱でした。助けてくれたのがこの勉強会。お母さん方が1対1で教えてくれて。返返しをしたくてここにきています」

「昔は勉強が嫌いで、学校に行くのが憂鬱でした。助けてくれたのがこの勉強会。お母さん方が1対1で教えてくれて。返返しをしたくてここにきています」

「昔は勉強が嫌いで、学校に行くのが憂鬱でした。助けてくれたのがこの勉強会。お母さん方が1対1で教えてくれて。返返しをしたくてここにきています」

「昔は勉強が嫌いで、学校に行くのが憂鬱でした。助けてくれたのがこの勉強会。お母さん方が1対1で教えてくれて。返返しをしたくてここにきています」

「昔は勉強が嫌いで、学校に行くのが憂鬱でした。助けてくれたのがこの勉強会。お母さん方が1対1で教えてくれて。返返しをしたくてここにきています」

「昔は勉強が嫌いで、学校に行くのが憂鬱でした。助けてくれたのがこの勉強会。お母さん方が1対1で教えてくれて。返返しをしたくてここにきています」

「昔は勉強が嫌いで、学校に行くのが憂鬱でした。助けてくれたのがこの勉強会。お母さん方が1対1で教えてくれて。返返しをしたくてここにきています」

「昔は勉強が嫌いで、学校に行くのが憂鬱でした。助けてくれたのがこの勉強会。お母さん方が1対1で教えてくれて。返返しをしたくてここにきています」

「昔は勉強が嫌いで、学校に行くのが憂鬱でした。助けてくれたのがこの勉強会。お母さん方が1対1で教えてくれて。返返しをしたくてここにきています」

「昔は勉強が嫌いで、学校に行くのが憂鬱でした。助けてくれたのがこの勉強会。お母さん方が1対1で教えてくれて。返返しをしたくてここにきています」

「昔は勉強が嫌いで、学校に行くのが憂鬱でした。助けてくれたのがこの勉強会。お母さん方が1対1で教えてくれて。返返しをしたくてここにきています」

「昔は勉強が嫌いで、学校に行くのが憂鬱でした。助けてくれたのがこの勉強会。お母さん方が1対1で教えてくれて。返返しをしたくてここにきています」

## ほぼ毎日自宅を開放 子どもたちの居場所に

して同伴できなくても、子どもだけで参加できるのが特徴だ。大勢の地域の大人が見守るから、滝登りのように注意が必要な活動にも取り組めるという。幼児からお年寄りまで参加するバス旅行も催す。

Kannanowaでは、これらの活動を「照子親」(てらこや)と呼ぶ。地域で支え合うことにより、親の負担を減らしながら、子どもたち一人ひとりに寄り添う。そうして子ども親も知らずという意味だ。

Kannanowaの意味は「佳奈の輪」。2012年に35歳でなくなった下関市出身の元教員、荒木佳奈さんのことを指す。

荒木さんは、下関や佐賀県の小、中、養護学校(現在は特別支援学校)で教員を務めたが、血液の難病を患い、闘病を強いられた。放射線治療や骨髄移植を受け、酸素ボンベと車いすが欠かせない生活になった。

そんななか、荒木さんは病やいのちと向き合うことを通じて考えたことや、教え子への思いなど、多くのメッセージを日記のようなかたちで書きとめていた。

「病気を患って、生活の質は落ちたかも知れないけれど、

「生活ではなく、人生」

荒木さんの母、山本郁子さんが娘のメッセージをまとめて出版。その本を、前田さんが偶然手にとったことがきっかけだった。

前田さんは荒木さんと同年。娘に先立たれた母の苦しみや、母を残して旅立った娘の胸のうちの想いを放っておけなくなると、山本さんに手紙を書き、交流が始まった。

荒木さんのメッセージを編み直し、改めて出版する手伝いをしていた前田さんは、ノートの端に走り書きを見つけた。



Kannanowaの体験活動で、捕鯨船に乗船する子どもたち=14日、下関市、前田亜樹さん提供

## いのちと向き合った女性の言葉 背中押され

「もっとじゃらんとピアノをならしたい」

「活動を始めたら、それ以前には経験できなかった幸せがたくさん、子どもたちからもお母さんたちからも返ってききました」と前田さんは言う。

「私は佳奈さんの言葉が胸にあって、人生をかけてやると決めています。まわりのお母さんたちが協力してくれるのは、たぶん楽しいから。何げない話をし、子どもたちとかかわれるのが楽しい」

荒木さんのメッセージをまとめた「つたえたいこと」として、「淋しい子の力になりたい! 不登校の子のお世話をしたい」といった言葉を残していた。

前田さんはこう話す。「私一人が頑張っても社会は変わらないと、見て見ぬふりをしてきたけれど、心の奥底には、さみしい思いをしている子がいたら助けたい、困っているお母さんいたら支えになりたい」という気持ちもあつた。行動に移せる組織をつくらうと、16年にKannanowaを立ち上げました」

Kannanowaは、住みよい地域社会や男女がともに参画する社会をつくるため、女性が中心となる活動に取り組む団体に贈られる「第17回女性いきいき大賞」(コープやまぐち主催、朝日新聞社など後援)の最優秀賞(県知事賞)に選ばれた。順次、受賞団体を紹介する。(松下秀雄)

「活動を始めたら、それ以前には経験できなかった幸せがたくさん、子どもたちからもお母さんたちからも返ってききました」と前田さんは言う。

「私は佳奈さんの言葉が胸にあって、人生をかけてやると決めています。まわりのお母さんたちが協力してくれるのは、たぶん楽しいから。何げない話をし、子どもたちとかかわれるのが楽しい」

荒木さんのメッセージをまとめた「つたえたいこと」として、「淋しい子の力になりたい! 不登校の子のお世話をしたい」といった言葉を残していた。

前田さんはこう話す。「私一人が頑張っても社会は変わらないと、見て見ぬふりをしてきたけれど、心の奥底には、さみしい思いをしている子がいたら助けたい、困っているお母さんいたら支えになりたい」という気持ちもあつた。行動に移せる組織をつくらうと、16年にKannanowaを立ち上げました」

Kannanowaは、住みよい地域社会や男女がともに参画する社会をつくるため、女性が中心となる活動に取り組む団体に贈られる「第17回女性いきいき大賞」(コープやまぐち主催、朝日新聞社など後援)の最優秀賞(県知事賞)に選ばれた。順次、受賞団体を紹介する。(松下秀雄)

「活動を始めたら、それ以前には経験できなかった幸せがたくさん、子どもたちからもお母さんたちからも返ってききました」と前田さんは言う。

「私は佳奈さんの言葉が胸にあって、人生をかけてやると決めています。まわりのお母さんたちが協力してくれるのは、たぶん楽しいから。何げない話をし、子どもたちとかかわれるのが楽しい」

荒木さんのメッセージをまとめた「つたえたいこと」として、「淋しい子の力になりたい! 不登校の子のお世話をしたい」といった言葉を残していた。

前田さんはこう話す。「私一人が頑張っても社会は変わらないと、見て見ぬふりをしてきたけれど、心の奥底には、さみしい思いをしている子がいたら助けたい、困っているお母さんいたら支えになりたい」という気持ちもあつた。行動に移せる組織をつくらうと、16年にKannanowaを立ち上げました」

Kannanowaは、住みよい地域社会や男女がともに参画する社会をつくるため、女性が中心となる活動に取り組む団体に贈られる「第17回女性いきいき大賞」(コープやまぐち主催、朝日新聞社など後援)の最優秀賞(県知事賞)に選ばれた。順次、受賞団体を紹介する。(松下秀雄)

「活動を始めたら、それ以前には経験できなかった幸せがたくさん、子どもたちからもお母さんたちからも返ってききました」と前田さんは言う。



## こども食堂応援宣言

「こども食堂」は、食事の提供を通じて、様々な家庭環境にある子どもたちの多様な学びや体験の場となるほか、地域での見守りの機能を果たすなど、家庭や学校に次ぐ第3の居場所となりうるものとして、重要な役割を担っています。

また、「こども食堂」の開設・運営を通じて、「こども食堂」が高齢者や障害者を含む地域住民の交流拠点に発展する可能性があるため、全ての人々が地域、暮らし、生きがいを共に創り、高め合うことができる「地域共生社会」の実現に向けて大きな役割を果たすことが期待されています。

こうした取組が、子どもたちのより身近な場所として、更には、地域住民の交流拠点として県内各地域に広がりますよう、地域、関係団体、企業、行政など、多くの皆様方の力を結集し、全力で「こども食堂」を応援します。

令和元年10月14日

山口県知事 村岡嗣政